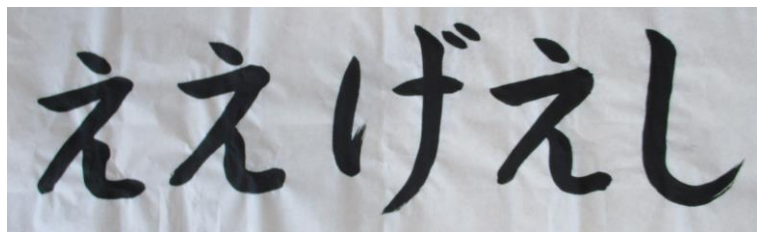


地域包括支援センターだより



「ええげえし」＝「相返し」秩父地域の方言で「助け合う・支え合う」ことを意味します。

第28号（年4回発行）

H30. 6. 1発行

《編集発行》

皆野町地域包括支援センター

皆野町大字大淵103-1

長生荘内

電話 63-1122

題字：皆野小4年 新井 千尋 さん

みんなのみんなの 助け合うまち

認知症サポーター養成講座 開催します！

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気です。

誰もが認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手だてを知ることが、とても大切です。

この機会に、認知症について知識を深め、関わり方を学びましょう。「認知症、みんなで学べば怖くない」

期日 6月18日(月)

時間 午後1時30分～3時

場所 総合センター

対象 認知症に関心のあるかた

※以前、講義を受けたことがあるかたも復習の意味でご参加ください

定員 先着70名

内容 認知症について理解を深め、症状への関わり方について学びます

修了後「埼玉県認知症サポーター証」「オレンジリング」の交付があります。

参加費 無料

持ち物 飲み物 筆記用具



申込み 6月1日(金)～6月15日(金)まで

地域包括支援センター TEL63-1122



劇団「いきあい」公演のご案内

～第4回いきあいフォーラム～

保健・医療・介護・福祉人材確保を考える

日 時：平成30年6月24日（日） 13：30～16：00

場 所：秩父宮記念市民会館 大ホール フォレスタ

入場料等：無料 申込み不要

「ちちぶ版地域包括ケアシステムの

状況報告」

ちちぶ圏域ケア推進会議 会長
久喜 邦康 秩父市長

「秩父地域が存続していくた
めに必要なことー医療・介
護・健康づくりを考える」

城西大学経営学部 教授
伊関 友伸 先生

劇団いきあい公演
「地域包括ケアシ
ステムが支えるあ
る地域の物語～人
材育成編～」

劇団「いきあい」は、秩父圏域の医療・介護・福祉専門職、行政職員などの有志で結成した素人劇団です。地域包括ケアシステムをわかりやすく理解できます。

お問合せ：皆野町地域包括支援センター
電話0494-63-1122

つどいの掲示板

下大浜地区の寄り合い集まり会

いってんべえ～、あつまんべえ～

日時：6月18日（月）午前10時から

場所：大浜ケアセンター

内容：家でもできる簡単体操

認知症予防のクイズやなぞなぞ・ゲームなど

毎回、工夫をこらして皆さんをお待ちしています。

問い合わせ 大浜ケアセンター 野巻 電話 63-1550

認知症予防のつどい

つむぐ会

編み物や小物作り方教えてくれる方も募集しています。

今年度も、和気あいあいとやっています。ふらっと寄ってください。

日時：平成30年度 第2、第4木曜日

10時から11時30分

場所：長生荘 集会室

対象者：認知症予防に興味・関心のあるかた

内容：編み物・小物づくり・塗り絵など

参加費：100円



参加者の皆さんの作品

問い合わせ 地域包括支援センター 電話 63-1122

皆野病院 認知症カフェ

生きいきカフェ みんなの

認知症の方もそうでない方も、気軽に立ち寄れる生きいきカフェが好評です。お茶飲み、おしゃべりをしながら楽しい時間を過ごせます。ぜひお出かけください。

日時：6月9日（土）

13時30分～15時

場所：皆野病院1階フロア

内容：認知症の話、体操、ハーモニカ演奏

医療や介護相談の受け付け

おいしいお茶やコーヒー・ココアもあります

当日ご自由に
参加ください



問い合わせ 皆野病院 居宅介護支援室 電話 62-6300

地域包括支援センターはこんな仕事をしています

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れたところで、安心して自立した生活が続けられるようにお手伝いします。介護保険サービスの利用方法、介護予防、認知症相談、医療・保健・福祉相談、虐待・消費者相談、そのほか生活に関する不安や悩みなどいろいろな相談に応じます。気軽にお電話・ご来所ください。

高齢者のよろず相談室

皆野町地域包括支援センター

皆野高校や国神小学校の下にある「長生荘」という平屋の建物の中ですよ。

電 話 63-1122

【編集後記】

地域活動（様々な寄り合い）に参加見学してみると、「年寄りばかりで活動が減った」「このままでは、10年後には地域のつながりがなくなってしまうのではないかなど聞こえてきます。その背景には、単に高齢化が進んでいることに留まらない、何かがあるようです。例えば、情報ツールの目覚ましい発達が、従来の地域の概念に大きな影響を及ぼしていると考えられます。いつでもどこでも世界中の人とつながり、あらゆる情報をやりとりできる時代です。

それはそれとして、自分の住んでいる地域は、これからも自宅と同じホームでありたいと思います。なぜなら、実際に人と会って会話し、情報や考えを共有すること、認めることは価値観の多様性をはぐくみます。災害時や緊急時に助けてくれるのは、目の前にいる人であるからです。

今日も地域包括支援センター職員は、地域に出向きます。みなさんの地域のことをいろいろ教えてください。（注：地域の範囲や概念の考え方は様々です。）

所長（社会福祉士） 新井 康弘